

# 新たな「いしかわの食と農業・農村ビジョン（仮称）」（案）のポイント

## 基本的な考え方

- 米をはじめとする農産物価格の低迷や担い手の高齢化・後継者不足など、本県の農業を取り巻く環境は厳しいことから、コスト低減・高付加価値化といった収益性の向上を図るための施策を充実させ、企業参入等多様な担い手の確保も進めることで農業の成長産業化を促進するとともに（産業政策）、農業生産以外の多様な収入源を確保して農村地域の振興も図り（地域政策）、これらを車の両輪として、農業・農村施策を展開する。

## 農業の成長産業化＝産業政策

### 次世代に向けた他産業との連携による農業の収益性の向上

- 「ものづくり産業の集積」という本県の強みを生かした新たな発想の導入
  - ・県内外の製造業との連携による収益性向上技術の開発・普及
- 長期的な視点に立った新品種や新技術の開発による収益性の向上

### ニーズの変化に対応した生産・販路の拡大と海外展開

- 特色ある県産農畜産物のより一層のブランド化による付加価値の向上
  - ・ルビーロマン等のブランド価値の向上、特別栽培農産物認証制度の創設
- 消費者ニーズ等に対応した県産農畜産物の安定生産・出荷
- 水稲単作から野菜等との複合化・多角化への転換
- 首都圏等でのさらなる販路開拓、インバウンド需要も含めた輸出促進

### 地域の農業を担う多様な担い手の活躍の支援

- 移住・定住対策と連携した移住就農の促進による、新規就農者の確保
  - ・農業・農村を移住希望者の受け皿として活用
- 耕稼塾による新規就農者から担い手までそれぞれのレベルに応じたスキルアップ支援
- 戦略的な農業参入企業の誘致による耕作放棄地解消や雇用創出の推進
  - ・農業参入総合支援プログラムによる国・県の施策を総動員した企業の農業参入支援

## 農村地域の振興＝地域政策

### 地域の強みを生かした里山の振興

- 里山振興ファンドによる多様な地域資源を活用した生業づくりの支援の充実
- 世界農業遺産認定のメリットを最大限に生かし、魅力を発信
- 「石川型スローツーリズムモデル」の推進
  - ・食を中心とした財産の磨き上げやネットワーク型による多様なサービスの提供

車の両輪

○その他の記載事項：TPP対策については、農業に与える影響が最小限となるよう必要な対策を講じることを国に働きかけるとともに、今後明らかとなる国の施策を予算の中で積極的に活用

○目標年度：平成37年度（10年後）とし、5年後を目途に見直しを検討